

企業ニュース 東京エレクトロン

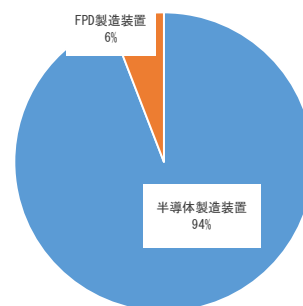
(東証1部 : 8035) <https://www.tel.co.jp>

作成者: 兵藤三郎

大手半導体製造装置メーカー

1963年、東京放送（現TBSホールディングス）の出資により、東京エレクトロン研究所として設立、1978年に現在の商号に変更した。半導体製造装置の輸入商社からスタートし、徐々に製造部門を強化してきた。コータ/デベロッパ（塗布・現像装置）、エッチング装置、成膜装置、洗浄装置などで高いシェアを持ち、世界の主な半導体メーカーにさまざまな装置を供給するメーカーとなっている。その他、フラットパネルディスプレイ製造装置も展開している。IoT、AI、5Gなどの情報通信技術用途の広がりに伴う半導体需要が高まっている。当社の業績が市場成長をアウトパフォームする要因として、スリットエッチングや超臨界乾燥・洗浄装置など、過去数年間にわたるPOR（顧客の製造工程における装置採用の認定）獲得が挙げられる。新規装置の拡販は利益率向上の効果も期待できよう。

◇21.3期売上高構成比



(出所) 東京エレクトロン資料よりCAM作成

POR獲得が業績をけん引

22.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は、売上高が4,520億円、前年同期比44%増、営業利益が1,418億円、同92%増。収益認識基準の変更も寄与したが、半導体投資の増加を背景に半導体製造装置の需要が拡大、出荷量は同40%程度増加した。売上高、営業利益は共に四半期ベースで過去最高を更新した。新規PORが売上に貢献、利益率が大きく向上した要因ともなった。セグメント構成比の変化も利益率向上に寄与した。

22.3期の会社計画は、売上高1兆8,500億円、前期比32%増、営業利益が5,080億円、同58%増。最新の顧客の設備投資動向と業績動向に鑑み、4月30日に公表した期初予想を売上高で1,500億円、営業利益で660億円上方修正した。注視する必要はあるとしながらも、足元の半導体不足なども勘案し修正された計画で、受注から売上計上までのリードタイムなどを勘案すれば、修正計画の成確度は高いと考えられよう。定量的な数字は時期尚早としながらも、半導体前工程製造装置の市場は2022年もプラス成長を見込んでいる模様。

[株価動向・投資判断]

半導体需要拡大を受けて顧客の設備投資意欲は旺盛。新規装置拡販に伴い利益率が向上している点も評価したい。株価は高値からの調整が進んでいるが、中期目線で押し目と捉えたい。

<8035 東エレクトロニクス 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	1,127,286 (▲12)	237,292 (▲24)	244,979 (▲24)	185,206 (▲25)	1,170.6	588.00
21.3	1,399,102 (24)	320,685 (35)	322,103 (31)	242,941 (31)	1,562.2	781.00
22.3 予	1,850,000 (32)	508,000 (58)	508,000 (58)	370,000 (52)	2,378.5	1189.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/8/20)	42,940 円
年初来高値 (高値日)	51,300 円 (21/4/5)
同安値 (安値日)	37,520 円 (21/1/4)
予想 P E R (22.3 予)	18.1 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	6,796.5 円
P B R	6.32 倍
予想配当利回り	2.77 %
(1株当たり配当金年1189.00円)	
R O E (21.3)	26.5 %
発行済み株式数	15,721 万株